



カウンセリング研修を生かした指導法

中央区 与野西中学校 教諭 栗原正幸

1 はじめに

私は、平成23年8月に2年経験者研修の一環として『カウンセリング基礎研修』を受講した。この研修では、講義だけでなくソーシャルスキルトレーニングや事例研究などの実践演習もあった。

現在、不安や悩みを抱えている生徒は多くいる。それを自ら話しにくる生徒への対応や指導はできるが、自分の心のうちに秘めてしまっている生徒への対応や指導は難しい。そのため、「心と体のアンケート」を定期的実施するなどして、生徒の抱える不安や悩みに応じている。しかし、話を漠然と聞くだけでは生徒はなかなか本心を語ってくれない。そこで必要になるのがカウンセリングスキルである。今回のカウンセリング研修で得たことを以下に述べる。

2 研修の内容

学校カウンセリングの本質と実際という講義では、「一つのいじめがあれば、見えないいじめは30倍、不安を持っている人は300倍」という内容から始まった。その人数の多さに驚き、自分の所属する学校や学年、学級の生徒を不安に思った。では、どうすれば顕在化できるのか。まずは少しでも生徒と同じ土俵に上がり、理解し理解される人間関係を作ることが肝要である。言葉のかけ方や積極的に生徒を受け入れようとする教師の姿勢によって、人間関係の深まり方が異なってくる。スキルを高めることで多くの

生徒たちとの人間関係を築くことができ、積極的な生徒指導にもつなげることができる。

3 研修の感想

カウンセリングスキルは奥深い。「自分は大丈夫、できている」と感じていることが、実際にはできていなかったり、ちょっとした工夫で効果が大きく変わることを実感したりすることができた。様々な場面での対応法や質問法なども学べ、また、小学校の先生たちの意見を聞くこともできた。生徒との接し方も人によって異なり、指導の幅が広がったように思う。

4 研修後の取り組みと成果

学校教育には、学習指導と生徒指導がある。現在、私は生徒指導担当であるが、生徒指導を行う際に、カウンセリングスキルを活用している。生徒たちから直接声を聞き、生徒と同じ目線に立つことを心がけ、生徒にとって望ましい方向へ促すよう指導している。成果としては、生徒がよく相談に訪れ、いろいろな情報をもたらし、その結果トラブルの未然防止・早期解決にもつながっている。

5 今後に向けて

カウンセリングスキルは今後も必要不可欠なものであり、さらなる実践と研修を重ね、生徒との人間関係を深め、指導に役立てていきたい。